

【 昭 和 村 】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

群馬県教育ビジョン（第 4 期教育振興基本計画）では、ICT 環境の整備と活用を通じて、学習者が主体的に学びを創造し、行動し続ける「自律した学習者」の育成を目指している。

具体的には、1 人 1 台の端末や高速通信ネットワークを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実現することが強調されている。これにより、児童生徒は自らの興味や関心に基づき、主体的に学習を深め、多様な価値観を尊重しながら協働する力を養うことが期待されている。また、教員の ICT 活用指導力の向上や、教育の質の向上を図るための組織体制の整備も推進されている。これらの取り組みにより、変化の激しい社会に対応できる資質・能力を持つ人材の育成が図られている。本村においても、端末利用を始めとする ICT 環境によって、「自立した学習者」の育成を目指していく。

2. GIGA 第 1 期の総括

国の GIGA スクール構想を受け、本村では、令和 3 年度までに県立小中学校 4 校（うち小学校 3 校・中学校 1 校）の児童生徒および教職員に対し、計 5 9 6 台の 1 人 1 台端末の整備を完了するとともに、高速通信ネットワークや無線 LAN 環境の整備を行い、ICT を基盤とした新たな学びの確立を進めてきた。

また、県立小中学校では、学校間、教員間で ICT の活用状況に差が生じないよう、夏休み期間中に研修を行い、1 人 1 台端末を活用した授業を推進してきた。

また、家庭でのインターネット環境の差が学習機会に影響を及ぼす可能性も指摘されたため、村独自で持ち運び可能なネットワーク環境の整備（導入費用および利用者のランニングコスト）を行い、課題解決に努めた。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

ドリルパーク（ミライシード）の宿題ドリル利用による生徒の興味・関心や習熟度に応じた個別最適な学びや、Google Workspace for Education やロイロノートスクールといったデジタルツールによる共同制作やリアルタイムでの意見共有を通じた協働的な学びを推進することで、1 人 1 台端末を活用したより深い学びを実践していく。

また、端末の家庭への持ち帰りを推奨し、家庭学習や保護者との連携を強化するほか、校外学習や地域活動においても、記録写真の撮影等に端末を活用し、実地での情報収集や発表に役立てている。

ICT 活用は学びの質や学びの転換（学び方や教師の指導・支援）に大きな影響を与える。端末を使うこと自体が目的化しないよう、学びを深めるための手段として位置づけ、ICT を使う目的を常に明確にし、授業の中でその利点を生かせるように、ICT 活用の意義とその効果を十分に理解しておくことが大切である。